勝川議員の
代表質問（11/29）

勝川議員
代表質問
（録画）

①市民満足度をあげる政策を中心にすえ持続可能なまちづくりを

勝川議員の質問	市長・部長の答弁
住民満足度を上げる事が人口流入を促す。	住みやすさを重視したまちづくりは人口増への大切な鍵。
子育て支援を核にすえて子育て支援予算の拡充を。	来年度策定の子ども計画に当事者アンケートを踏まえて検討する。
保育・教育の無償化の拡大自己責任論でなくすべての子育て世代に社会の責任で子育て支援を。議会のアンケートなども参考にニーズ把握を。	保育料の軽減に 1.5 億円を出すなどしている。来年の計画策定の中で検討する。
どこにでも住み続けられる公共交通計画で移動の権利保障を。	将来的にはドアツードアの移動手段への転換が必要になると考えている。既存公共交通との共存を図りながら交通弱者に配慮するドアツードア型交通体系の導入を検討する。
住み続けられるまちづくりの観点で公共施設マネジメントの見直しを。	原野谷では今地域振興やまちづくりも含めて学校再編の検討をしていく。

②ごみの減量化に真剣に取組む姿勢が環境の持続性をつくる

勝川議員の質問	市長・部長の答弁
ごみの外部搬出というピンチをごみ問題を学ぶチャンスに 施設見学や学びの場を市民や子どもたちに。	おむつリサイクル・ごみ減量推進会議での議論を踏まえ、新たな分別さらなる減量施策を展開していきたい。もはや電気やガスが安く使えて CO2 をただで出せる時代は終わったと言う認識に立ち、市民の消費スタイルや事業者の生産活動、意識変革にもとづく行動変容につながる施策のギアアップを図る おむつリサイクルは意識の高い若い世代への共感を呼ぶと思う。
市役所を手始めにごみの組成調査や減量化作戦を 市役所が率先していくことが重要。かさばる紙おむつや水分ばかりの生ごみ、燃やす必要のない落葉や剪定枝などに早く対策を。	目的をはっきり伝え、データと共にメリットを伝えたい 早い段階で実践に移れるように進めていきたい。
学校を環境教育の場として 条例も活用を。	9日はもったいないの日として、市民団体や企業ともタイアップして条例の目標達成に取り組む。
無償化政策とセットで学校給食に地場農産物、有機食材を取り入れて地元の農業オーガニックビレッジ宣言の後押しを。	財源確保が難しい 学校給食に、有機米が今年度 1 回、来年は 3 回程度、有機茶が今年小 1 回、来年小中 2 回を計画している。
牛乳のストローレス化、ソーラーパネルの拡大など環境意識の変革を学校から	研究する。
維持管理費（公園・道路・河川の法面など）の維持管理予算の増額を。	草刈り業務員の増員を検討する。

かさばる紙おむつ

水分の多い生ごみ

今は燃やしている落ち葉

③広域行政にも自治体の責任を

勝川議員の質問	市長・部長の答弁
中東遠総合医療センター、環境資源ギャラリー（ごみ処理施設）始め広域で行なっている事業も市の責任ある関与が必要。 中東遠の医師の逮捕事件などもあったが、対応が遅く、市としての責任ある対応がされていないのでは。	企業団であり、運営責任は企業長が負う事になっている。今回初のケースで不慣れと言うこともあったかと思う。適切な再発防止策をとっていきたい。これまで以上に市の保健医療政策や市民要望等に対する意見交換を行ない市の責任を果たしていく。
ごみ処理は自治体の大切な役目。市のごみ減量化政策が反映できるように。	市民の安全安心と安定したごみ処理の確保など重要な意志決定は掛川市、菊川市が十分な関与や提案を行なっている。

どこに住んでいても、お金の有る無しにかかわらず、子どもも子育て世代も高齢者も住みやすさを感じる事ができるまちづくり、視線の先にちゃんと市民がいる市政運営を期待する。

高騰化する ごみ処理費用

（単位：千円）　（単位：円）

年度	ごみ処理費用	1人当たりのごみ処理費用
H30	654,457	5.550
R1	664,314	5.633
R2	940,799	8.029
R3	1,342,064	11.513
R4	1,517,623	13.093

掛川市一般廃棄物処理基本計画(案)より